



T S U N A G U

2026 年 1 月 号

発行／医療法人 大泉会

第 14 号

のことを着実に実行し、足元を深く見詰め直す一年でした。大きな成果よりも、日々のサービスやケアが最も大切であることを再確認し、サービスの質が向上し大切な基礎ができたと自負しております。

そして、2026年（令和8年）の理事長指針として、私は「向」の一字を選びました。

この「向」には、大きく三つの想いを込めています。一つ目は、「前を向く」こと。少子高齢化や社会情勢の変化など、私たちを取り巻く環境は決して平坦ではありません。しかし、この数年で鍛え上げた力を最大限に活かし、顔を上げ、未来という前方へ「向」かつて力強く進んでいきたいという想いです。これまでの積み重ねがあるからこそ、私たちは同じ方向を向き恐れずに前進することができます。

二つ目は、「真摯に向き合う」こと。これは医療・介護の原点です。患者様や利用者様の声に耳を傾け、その痛みや不安に「向」き合うこと。そして、職員同士がお互いの立場や考えを尊重し合い、膝を突き合わせて課題に「向」き合うこと。ICT化やDXが進む昨今ですが、最後に質を決めるのは「人と人との向き合う力」です。「向」という字は、私たちが常に相手の心に寄り添う姿勢を表しています。

三つ目は、「向上（こうじょう）」です。現状に満足することなく、より良いケア、より良い職場環境を目指して、より良い方へ「向」かうこと。昨年「凡」で固めた基礎の上に、今年はさらなる質の「向上」という花を咲かせたいと考えています。

本年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。「丙」は陽気が発揚する様子を、「午」は活発な生命力を象徴すると言われています。これまでの蓄積が一気に開花し、明るい陽射しに向かって草木が伸びるように、私たち大泉会にとっても、エネルギーに満ちた飛躍の年になるという予感がいたします。

この「向」の指針のもと、本年も患者様、利用者様、そして地域の皆様に対し、スタッフ一丸となって真摯に「向き合い」、共に未来へ「向かって」歩んでまいりる所存です。安心で安全、そして信頼される地域に密着した医療・介護・福祉のトータルケアをより「向上」した形で提供できるよう、誠心誠意取り組んでまいります。

結びになりますが、皆様にとりまして本年が、希望に満ち、明るい方向へと大きく前進する一年となりますことを心よりお祈り申し上げますとともに、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

医療法人大泉会 理事長 佐々木 徳之

謹んで新春をお祝い申し上げます。平素は弊法人の各事業所、各サービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。まずはこの場をお借りして、患者様、利用者様、そして地域にお住まいの皆様、に厚く御礼申し上げます。また、日々の業務において、安心・安全なケアの提供に尽力している職員一人ひとりに、心からの敬意と感謝を表します。

さて、私たちは毎年一つの漢字を指針として掲げ、日々各種サービスの提供に取り組んでおります。私が理事長へ就任した以降は、先人たちが築き上げた歴史を「繫（つな）ぎ、繋いだ全てのご縁や、スタッフ、事業所の連携を強固に「結（むす）び、その結び目としてのサービスの質や全てのご縁を大切に「育（はぐく）んでまいりました。そして昨年、2025年は「凡（ぼん）」を掲げました。これは「凡事徹底」の精神のもと、当たり前

向

一 大仙病院

2026年度は在宅医療に力を入れてまいります

大仙病院では「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる医療」を目標に、在宅医療（往診・訪問診療）を提供しています。年齢を重ねるにつれ、通院が難しくなったり、体調の変動が大きくなることで、外出や待ち時間そのものが負担になることがあります。

そのような方々がご自宅や施設で安心して医療を受けられるよう、医師・看護師・リハビリスタッフ・地域の介護事業者・いずみクリニック等と連携し、支援しています。

在宅医療では定期診察だけでなく、急な体調変化への対応、薬の調整、必要に応じた検査なども行います。治療だけでなく生活面も含めて支援することで、不安や負担を減らし、「その人らしい生活」を続けられる環境づくりに取り組んでいます。

令和7年12月には、新しく在宅患者専用の福祉車両（キャラバン）を導入しました。これにより、以前は救急車のみ対応可能だったリクライニング車いすの方やストレッチャー移動の方も、キャラバンで搬送可能となり、より柔軟な対応が可能となりました。

在宅医療では、医療だけでなく「相談できる安心」がとても大切です。不安なとき、困ったとき、そして迷ったとき……。そんな時に思い出して頼っていただ



在宅患者専用の福祉車両

一 大泉会介護支援センター

ける存在でありたいと考えています。今後「病院に來られないから医療が受けられない」という状況をなくし、必要な医療が必要な場所へ届け、地域の皆さまに寄り添う医療を続けてまいります。

日本の高齢化社会において、認知症の方は年々増加しています。

2025年9月現在、高齢者（65歳以上）の人口は3619万人、割合は全人口の29.4%です。

そのうち、認知症および軽度認知障害の有病率は約28%とされています。（総務省統計による）認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、介護保険では次のようなサービスをご利用いただけます。

■「自宅から通いたい…」

【認知症対応型通所介護】

認知症のある高齢者を対象としたデイサービスです。少人数制で専門スタッフが対応し、認知症の進行予防や在宅生活の継続を支援します。

【特徴】

- ・おおむね12名程度の少人数制
- ・認知症ケアの知識・技術を持つスタッフが対応
- ・ご家族の介護負担軽減を目的とした支援



■「自宅での介護が難しくなったら…」

【認知症対応型共同生活介護（グループホーム）】

認知症のある高齢者が、スタッフの介助を受けながら共同生活を送る施設です。

【特徴】

- ・5～9名の少人数で、家庭的な環境・個室あり
- ・日中は利用者3人に対して1名のスタッフ配置
- ・入居には医師による認知症診断および要支援2以上の認定が必要

まずは、介護支援専門員（ケアマネジャー）へご相談ください。



介護付有料老人ホーム むこうがおか

■イン스타그램更新中

不定期ですが、7月よりイン스타그램を更新しています。日々の生活やレクリエーション・イベントの様子を掲載していますので、ぜひ「いいね！」をお願いします。



■レクリエーション紹介

今回は、8月18日の盆踊り体操、9月28日のボランテアによるジャグリング、10月29日の秋祭りの様子をご紹介します。

盆踊り体操では、職員手作りのミニ樽を囲んで炭坑節を踊りました。立って踊られる方や笑顔で参加される方も多く、楽しんでいただけた様子でした。

秋祭りでは、射的・輪投げ・金魚すくいな

ど懐かしい遊びや、焼き芋やたこ焼きなどのおやつもあり、大変盛り上がりました。今後、楽しんでもいただけるレクリエーションを企画してまいります。



盆踊り体操



ジャグリング

ICT導入について

むこうがほかでは、令和7年度「大阪府介護施設整備事業補助金」を活用し、ICT導入を進めています。見守り機器・インカム・介護記録ソフトなどが導入されることで、入居者様の安全確保とサービスの質向上、職員の業務負担軽減を図ります。導入初期は操作等でご不便をおかけする場合がございますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

介護老人保健施設 つののしば

デイケアからデイサービスへ移行し、まもなく2年が経ちます。経験豊富な理学療法士・作業療法士が個別リハビリを行っており、転倒予防や動作の安定を目指して皆さん日々取り組まれています。また、レクリエーションにも楽しく参加され、毎日賑やかに過ごされています。

新しい年を迎え、これからも感染症予防に努めながら、利用者様が安心して通っていただける環境づくりを続けてまいります。引き

続き、皆様の健康維持と、笑顔で過ごせる時間づくりをサポートしていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



リハビリのようす

介護老人保健施設 くのし

くろいし 食のレクリエーション

くろいしでは、「食べる楽しみ」を大切に、定期的におやつレクリエーションを実施しています。デイケアでは月1回・2日間、フロアでは数か月に1回の頻度で行っています。職員が利用者様の食べたいものを検討し、提供方法や器の選定にもこだわっています。フロアでは利用者様に作業へ参加していただくこともあります。

これまで、クレープ・どら焼き・パフェなど様々なおやつを提供してきました。

また、年に1回、昼食時にイベント食を実施しています。



・2025年1月／しゃぶしゃぶ（フロア）

すき焼き（デイ）

・2024年1月／すき焼き

・2023年1月／まぐろ解体ショー

・2022年3月／カニ鍋・かに天ぷら

まぐろ解体ショーでは業者の方に来ていた

だき、部位の説明を行いながら解体し、その後刺身やお寿司として提供しました。



カニ鍋

これらの取り組みにより、普段は食が細い方も、いつもより多く召し上がられることがあります。利用者様の笑顔を見ると、職員も大変嬉しく感じています。今後も、利用者様に喜んでいただけるレクリエーションを継続してまいります。



まぐろ解体ショー

介護老人保健施設 だいせん

介護老人保健施設だいせんリハビリテーション科では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のスタッフ11名が在籍し、入所・通所・訪問の3分野で、利用者様一人ひとりの状態に合わせたリハビリテーションを提供しています。

また地域活動として、自治会館での体操教室・健康教室の開催や、地域包括支援センターと連携した地域向け保健室など、地域の皆様が健康に過ごしていただけるよう取り組んでいます。

入所

急性期・回復期病院からの継続リハビリが必要な方や、在宅生活が難しい方まで幅広い方に支援を行っています。

リハビリの一環として、だいせん敷地内の畑を活用し、旬の野菜を苗植えから収穫・調

理まで利用者様と一緒に
行っています。身体機能だけでなく、
認知面・精神面の安定や改善
にもつながる活動として、ご
好評いただいています。

■通所

半日・1日利用など生活ス
タイルや目的に応じてご利用
いただいています。利用者様
の希望や生活背景に合わせたリハビリ内容の
提供に加え、ロボット歩行器や筋力強化マシ
ンを取り入れ、身体機能の維持・向上を支援
しています。

■訪問

堺市内を中心に各ご家庭に
訪問しリハビリを行います。

その方の症状や生活に沿っ
たりハビリを行い、必要に応
じて環境面の提案（福祉用具
の活用等）もしていきます。

■いずみクリニック

「足腰が弱って通院が難しい」「一人暮ら
しの親が心配」など、通院にお困りの方へ、
在宅医療という選択肢があります。

在宅医療とは、医療が必要であるにもかか
わらず、身体機能の低下や障害などにより通
院が難しい方を対象とした医療サービスです。
また、「住み慣れた自宅で最期まで過ごし
たい」という患者様やご家族の思いを支える
医療でもあります。

在宅医療は大きく分けて、「訪問診療」と「往
診」の2つがあります。



■訪問診療とは

医師が定期的に患者様のご自宅へ伺い、計
画的に診療を行う仕組みです。
患者様の病歴や症状、生活状況、療養の希望
などを踏まえて診療計画を立て、必要に応じ
て看護師や多職種と連携しながら継続的に支
援していきます。

訪問診療の目的は、生活
の質（QOL）を維持・向
上させながら、安心して自
宅で暮らし続けられる環境
を整えることです。

医療機関で行う積極的治
療とは異なり、患者様の暮
らしに寄り添った支援が中心となります。

■往診とは

往診は、訪問診療と違い、突発的な症状や
急変などが生じた際に、患者様やご家族の要
請に応じて医師が訪問する医療サービスです。
緊急対応を目的とした、一時的な医療とイメー
ジいただけると分かりやすいかと思います。

普段は問題なく過ごせていても、「もしもの
時に自力で受診できない」あるいは、「継続的
に診てくれる医師が近くにいてくれたら安心」
そんなお気持ちがある場合は、ぜひ一度ご相
談ください。

ご本人・ご家族の
不安や希望を伺いな
がら、適切な医療と
支援方法をご提案い
たします。



地域に密着した医療・介護・福祉ネットワーク

医療法人 大泉会
<https://daisenkai.jp>



地域に密着した



のトータルケア

医療法人 大泉会

大仙病院

〒593-8302
大阪府堺市西区北条町1丁2番31号
TEL 072-278-2921
FAX 072-278-2925

医療法人 大泉会

いずみクリニック

〒591-8036
大阪府堺市北区百舌鳥本町2丁401番地
TEL 072-257-6226
FAX 072-258-5537

医療法人 大泉会

いずみ訪問看護ステーション

〒593-8302
大阪府堺市西区北条町1丁2番31号
TEL 072-276-5505
FAX 072-276-5525

**大泉会
介護支援センター**

〒593-8303
大阪府堺市西区上野芝向ヶ丘町1丁21番5号
TEL 072-270-8305
FAX 072-270-8306

医療法人 大泉会
介護老人保健施設

だいせん

〒599-8234
大阪府堺市中区土塔町155番1
TEL 072-230-0201
FAX 072-230-0205

医療法人 大泉会
介護老人保健施設

くろいし

〒594-1113
大阪府和泉市黒石町566番1
TEL 0725-57-2266
FAX 0725-57-2267

医療法人 大泉会
介護老人保健施設

うえのば

〒593-8303
大阪府堺市西区上野芝向ヶ丘町4丁24番30号
TEL 072-276-3500
FAX 072-276-1700

医療法人 大泉会
介護付き有料老人ホーム

むこうがおか

〒593-8303
大阪府堺市西区上野芝向ヶ丘町4丁24番39号
TEL 072-281-1135
FAX 072-281-1139